

施策マネジメントシート ～2019年度の振り返りから2020年度の取組へ～

①計画⇒実施（Plan⇒Do）

（5月中に記入）

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野		くらし分野		担当課		企画課			
	政策分野		社会基盤・環境		課長名		森 真樹			
	施策		2 公共交通の充実		重点施策の該当		2019	-	2020	-
施策の目的	対象	市民、来訪者、運行业者			意図	移動手段が確保され、便利に利用できる				

施策の目標指標

目標指標(単位)	長振策定時	指標の推移				最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	2019年度実績値	2020年度目標値	2021年度目標値
地域公共交通の市民満足度(%) (どんがタクシー・わかさ姫 航路の市民満足度(%) (フェリー・高速船満足度平均))	28.1	30.6	19.8	21.7 (32.0)	33.5	35.0
航空路の市民満足度(%)	25.3	30.5	23.8	27.9 (28.0)	29.0	30.0

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
75.6	29.1	80.8	27.5	73	25.5				
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
66.4	-6.1	75.0	-10.5	64.4	-6.5				

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連 戦略 No.	成果指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度実績	2019年度実績値	2020年度目標値	2021年度目標値	
地域公共交通の利便性の向上	37	デマンド型乗合タクシー(どんがタクシー)利用者数(人)	26,985	24,180	21,567	20,356 (21,783)	20,560 (22,000)	20,765 (22,220)	
地域公共交通の利便性の向上	38	市街地巡回バス(わかさ姫)利用者数(人)	11,314	11,120	11,356	11,346 (11,651)	11,459 (11,767)	11,554 (11,884)	
航路・航空路の利便性の向上	15	高速船利用者数(離島カード・島発往復者)(人)(鹿・西)	58,223	86,616	99,155	96,511 (87,000)	100,000	100,000	
航路・航空路の利便性の向上	15	フェリー利用者数(離島カード・島発往復者)(人)(鹿・西)	-	839	674	794 (1,000)	686 (680)	692	
航路・航空路の利便性の向上		種子島空港利用者数(定期路線・チャーター便・臨時便含む)(人)	75,938	83,936	88,984	85,559 (86,891)	90,000	90,000	

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
・平成29年4月から有人国境離島法による航路・航空路の運賃割引が実施されている。 ・デマンド型乗合タクシーについては、区域内の指定停留所以外での乗降の要望が市民から出ている。 ・路線バスについては、利用者数が伸び悩み、事業者の交代があった。 ・3月には新型コロナウイルスの影響を受け、利用者数の減がみられた。	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成果	・路線バスについては、1市2町で安定運行の方策について広域的な公共運営も視野に検討を進めた。民間会社の撤退及び新規参入により一時的な混乱はみられたが大きな影響はでなかった。運輸支局の助言ももらいながら引き続き安定運行の方策を探っていく必要がある。 ・市内公共交通については、アンケート調査、業者や運輸支局との協議を行い、校区内の移動支援、途中下車(どんがタクシー)、種子島高校へのバス停設置など改善に向けた検討及び調整ができた。
現状・課題	・コロナ禍にあっても、離島航路・航空路について、地元住民のなくてはならない交通手段として、一定便数の確保に努めていく必要がある。 ・高速船の更新問題について、対応が迫られる。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)
継続・現状維持	・運賃低廉化により地元住民の生活路線として航路・航空路の安定運行が図られているものの、島外の利用客増加に向けた取組を観光交流の視点で検討していく必要がある。 ・市内公共交通については、費用対効果を見極めつつ利便性向上に努めていく。

②-2 政策部会による振り返り(Check)

（6月中に記入）

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)
継続・現状維持	【総務企画部会】 ・運賃低廉化により地元住民の生活路線として航路・航空路の安定運行が図られているものの、島外の利用客増加に向けた取組を観光交流の視点で検討していく。 ・市内公共交通については、費用対効果を見極めつつ利便性向上に努めていく。 ・高速船の更新問題については、業者、国、県と調整を図り、要請等を行っていきたい。